

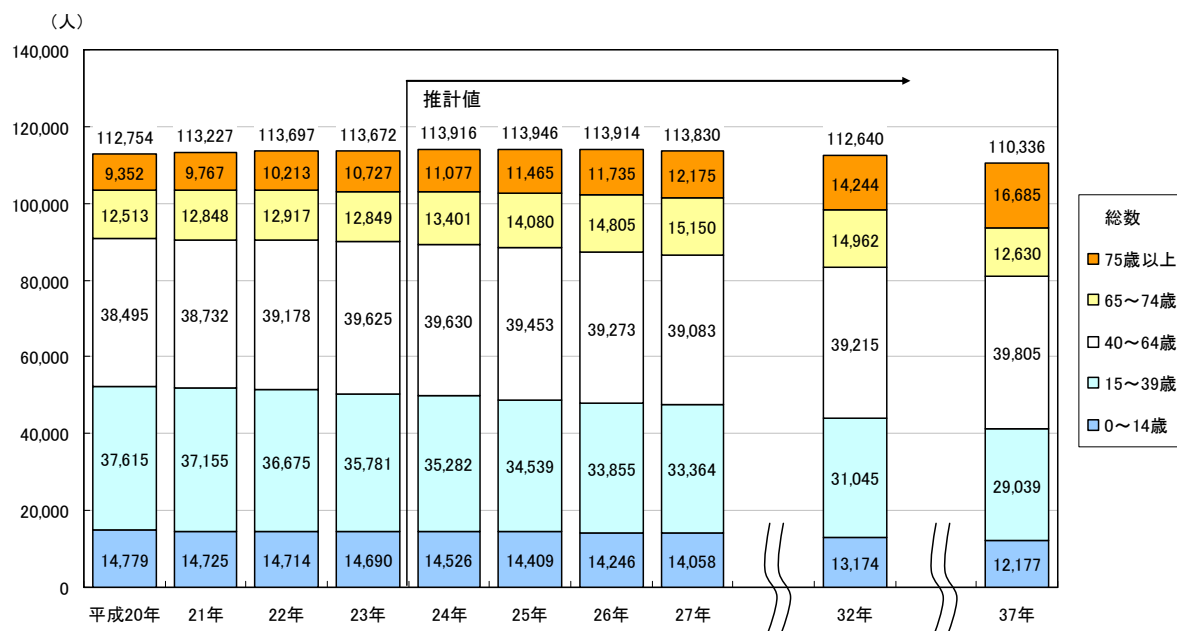
第2章 高齢者の現状

1. 人口

昭島市の人口は、平成23年10月1日現在113,672人で、これまで微増傾向が続いていましたが、現時点ではわずかながら減少に転じています。コーホート変化率法による人口推計結果でも、第5期計画期間中の平成26年以降は人口が減少していく見込みとなっています。

一方で高齢者人口は、75歳以上の後期高齢者で増加傾向が顕著となっています。

図表 高齢者人口の状況



資料：住民基本台帳・外国人登録（各年10月1日時点）

※平成24年以降は、平成19年～22年の実績をもとに推計。

2. 世帯

核家族化の進展に伴って、高齢者のいる世帯構成も変化しています。家族との同居世帯が減少し、ひとり暮らし世帯が顕著に増加しています。

図表 高齢者のいる世帯の状況

調査年	一般世帯	高齢者世帯										
		計		ひとり暮らし世帯			高齢夫婦世帯			同居世帯		
		世帯数	一般世帯 構成比	世帯数	一般世帯 構成比	高齢世帯 構成比	世帯数	一般世帯 構成比	高齢世帯 構成比	世帯数	一般世帯 構成比	高齢世帯 構成比
平成2年	39,827	8,642	21.7%	1,702	4.3%	19.7%	1,563	3.9%	18.1%	5,377	13.5%	62.2%
12年	41,754	10,861	26.0%	2,644	6.3%	24.3%	3,076	7.4%	28.3%	5,141	12.3%	47.3%
17年	44,631	13,249	29.7%	3,475	7.8%	26.2%	3,951	8.9%	29.8%	5,823	13.0%	44.0%
22年	47,167	15,505	32.9%	4,375	9.3%	28.2%	4,613	9.8%	29.8%	6,517	13.8%	42.0%
東京都	6,382,049	1,837,074	28.8%	622,326	9.8%	33.9%	516,475	8.1%	28.1%	698,273	10.9%	38.0%

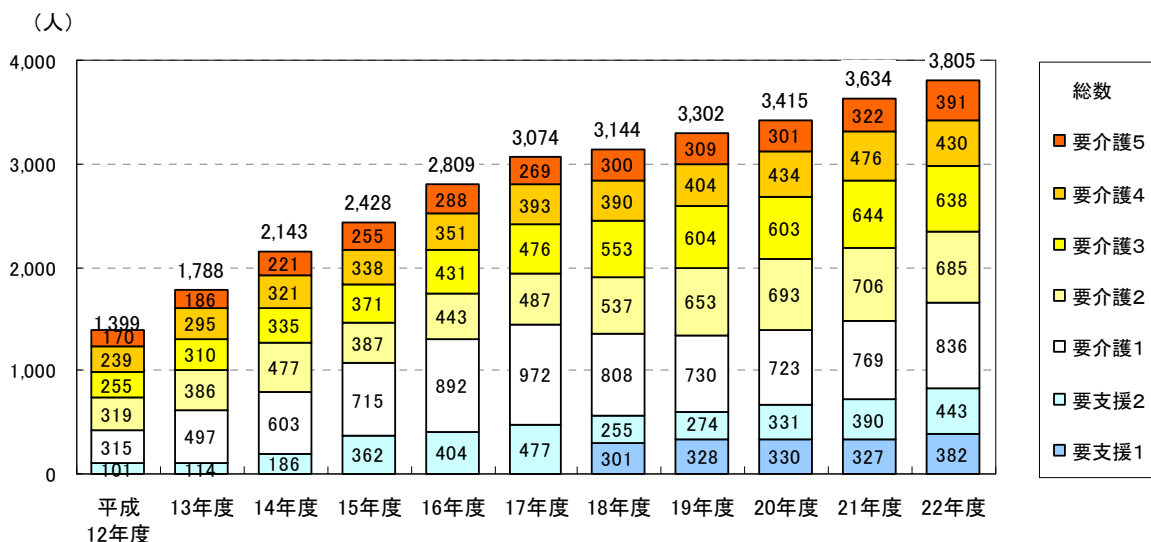
資料：国勢調査

3. 要支援・要介護認定者

要支援・要介護認定を受けている第1号被保険者数は、平成19年の3,302人から平成22年には3,805人と、この3年で503人の増加となっています。

この認定者数を第1号被保険者数で除した認定率は、平成19年の15.6%から平成22年には16.6%と、1.0ポイントの上昇となっています。

図表 要支援・要介護認定者数（第1号被保険者）



資料：介護保険事業状況報告（各年度末時点）

4. 認知症

介護保険制度で認定制度が導入されたことにより、介護認定資料（主治医の意見書）から高齢者の認知症の実態が把握できるようになりました。

本市の認知症認定者の自立度では、「自立度Ⅱ：何らかの介護支援を必要とする認知症がある高齢者」が27.3%、「自立度Ⅲ：一定の介護を必要とする認知症がある高齢者」が20.3%と高くなっています。

図表 認定者に占める認知症高齢者

項 目		人数	割合	備 考
介護認定者数		4,020	100%	
自 立		1,091	27.1%	日常生活が自立している
認知症認定者数	自立度Ⅰ	642	16.0%	家庭内及び社会的にほぼ自立している
	自立度Ⅱ	1,099	27.3%	何らかの介護支援を必要とする認知症がある高齢者
	自立度Ⅲ	816	20.3%	一定の介護を必要とする認知症がある高齢者
	自立度Ⅳ	312	7.8%	常に介護を必要とする認知症がある高齢者
	自立度Ⅴ	60	1.5%	専門医療を必要とする認知症がある高齢者

5. 日常生活圏域二エズ調査結果

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

第5期介護保険事業計画の基礎資料を得るとともに、要介護（要支援）認定を受けていない対象者から、二次予防事業対象者を抽出することを目的として実施。

2) 調査対象

- ・65歳以上の高齢者 3,000人（無作為抽出）

3) 調査方法

- ・郵送による配布・回収

（回収締切り日前に未回収者に対して督促状を送付）

4) 調査項目

- ①家族や生活状況
- ②生活機能
- ③外出
- ④運動・転倒予防
- ⑤栄養・食事・口腔
- ⑥記憶
- ⑦足のケア
- ⑧日常生活動作
- ⑨社会参加
- ⑩健康
- ⑪運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービス、今後の介護の希望

5) 調査時期

- ・平成23年6月17日～6月30日

6) 回収結果

- ・調査対象者数・・・・・・3,000人
- ・有効回収数・・・・・・2,465人
- ・有効回収率・・・・・・82.2%

(2) 回答者の属性

1) 性別年齢構成

単位：人

性別	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数
男性	(31.2%) 343	(28.1%) 309	(20.1%) 221	(13.5%) 148	(7.1%) 78	(100.0%) 1,099
女性	(27.7%) 379	(24.8%) 339	(20.9%) 286	(14.9%) 204	(11.6%) 158	(100.0%) 1,366
総数	(29.3%) 722	(26.3%) 648	(20.6%) 507	(14.3%) 352	(9.6%) 236	(100.0%) 2,465

2) 地域別年齢構成

単位：人

地域	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数
東部	(26.9%) 211	(27.6%) 216	(20.1%) 157	(15.3%) 120	(10.1%) 79	(100.0%) 783
中部	(30.9%) 284	(25.9%) 238	(19.9%) 183	(14.1%) 130	(9.1%) 84	(100.0%) 919
西部	(29.8%) 227	(25.4%) 194	(21.9%) 167	(13.4%) 102	(9.6%) 73	(100.0%) 763
総数	(29.3%) 722	(26.3%) 648	(20.6%) 507	(14.3%) 352	(9.6%) 236	(100.0%) 2,465

3) 性別認定状況

単位：人

性別	一般高齢者	認定者								総数
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
男性	(89.5%) 984	(10.5%) 115	(1.4%) 15	(1.3%) 14	(2.4%) 26	(2.4%) 26	(1.4%) 15	(1.4%) 15	(0.4%) 4	(100.0%) 1,099
女性	(83.6%) 1,142	(16.4%) 224	(2.3%) 32	(2.8%) 38	(4.2%) 57	(3.3%) 45	(1.9%) 26	(1.0%) 14	(0.9%) 12	(100.0%) 1,366
総数	(86.2%) 2,126	(13.8%) 339	(1.9%) 47	(2.1%) 52	(3.4%) 83	(2.9%) 71	(1.7%) 41	(1.2%) 29	(0.6%) 16	(100.0%) 2,465

4) 地域別認定状況

単位：人

地域	一般高齢者	認定者								総数
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
東部	(86.2%) 675	(13.8%) 108	(1.4%) 11	(2.4%) 19	(4.2%) 33	(3.1%) 24	(1.3%) 10	(1.1%) 9	(0.3%) 2	(100.0%) 783
中部	(87.9%) 808	(12.1%) 111	(1.5%) 14	(1.6%) 15	(2.6%) 24	(2.4%) 22	(2.2%) 20	(0.9%) 8	(0.9%) 8	(100.0%) 919
西部	(84.3%) 643	(15.7%) 120	(2.9%) 22	(2.4%) 18	(3.4%) 26	(3.3%) 25	(1.4%) 11	(1.6%) 12	(0.8%) 6	(100.0%) 763
総数	(86.2%) 2,126	(13.8%) 339	(1.9%) 47	(2.1%) 52	(3.4%) 83	(2.9%) 71	(1.7%) 41	(1.2%) 29	(0.6%) 16	(100.0%) 2,465

(3) 調査結果の概要

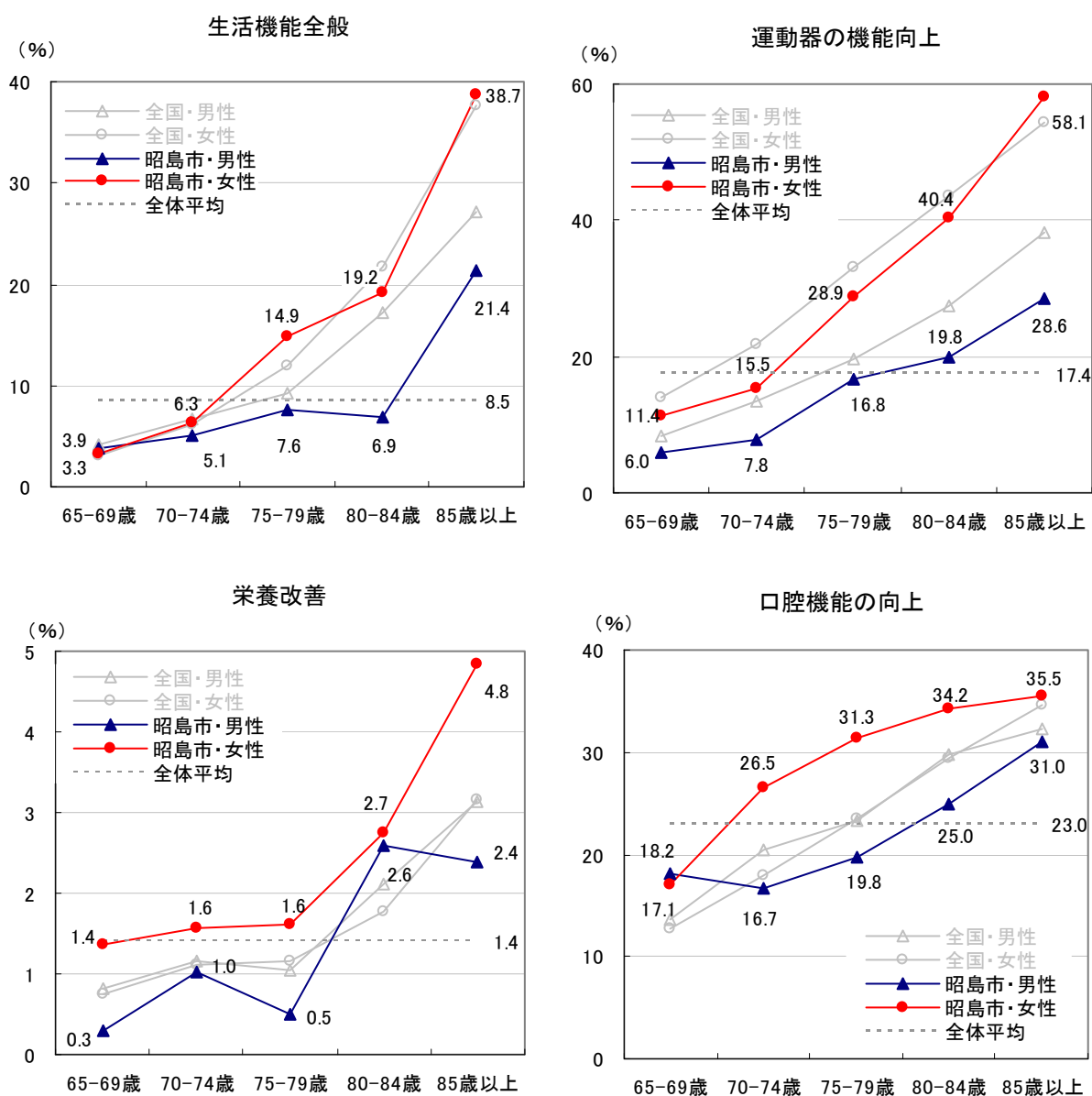
1) 二次予防事業対象者

二次予防事業対象者選定の評価項目別の結果をみると、「口腔機能の向上」が全体の23.0%で最も多く、次いで「運動器の機能向上」(17.4%)、「生活機能全般」(8.5%)が続いています。「栄養改善」は全体の1.4%で、非常に少なくなっています。

これを性別にみると、4項目とも女性のほうが該当者割合が高くなっています。年齢別では、「生活機能全般」や「運動器の機能向上」で、年齢が上がるほど該当者割合が高くなる傾向が顕著ですが、「口腔機能の向上」ではそれほど顕著な差とはなっていません。

これを全国で行われた日常生活圏域ニーズ調査のモデル事業(対象者約3万人)の調査結果と比較すると、「運動器の機能向上」については男女ともに全国の値を下回っています。

図表 評価項目別該当者割合



2) その他の基本チェックリスト評価項目

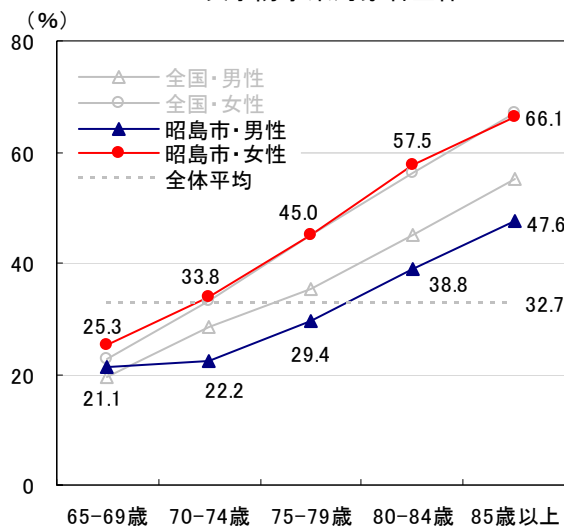
二次予防事業対象者は、同一回答者が重複して複数項目で該当者になっている場合もあるため、そうした重複を除いた二次予防事業対象者全体の集計結果をみると、男性よりも女性のほうが、また年齢が高くなるほどその割合が高くなっています。これを全国の調査結果と比較すると、女性については、ほぼ全国と同程度の対象者割合となっていますが、男性については、ほとんどの年代で全国の値を下回っています。

この対象者の中で、さらに「閉じこもり予防・支援」、「認知症予防・支援」、「うつ予防・支援」の項目に該当する方は、それぞれの状況にも考慮した支援が必要になります。

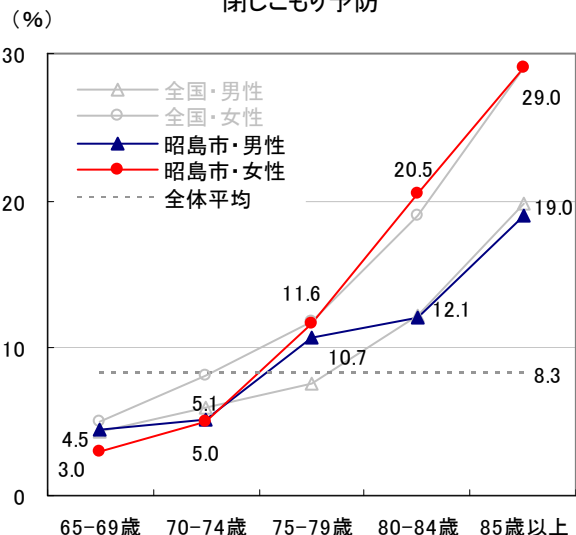
認定を受けていない回答者について、これら3項目の該当者割合をみると（二次予防事業対象者以外も含む。）、最も多いのが「認知症予防・支援」で全体の36.1%を占め、次いで「うつ予防・支援」（30.6%）となっています。

これを全国の調査結果と比較すると、女性の「うつ予防・支援」の該当者割合が全国よりかなり高くなっています。

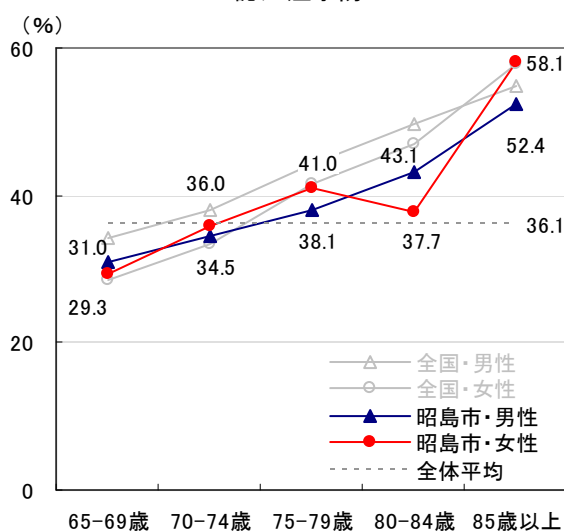
図表 二次予防事業対象者割合
二次予防事業対象者全体



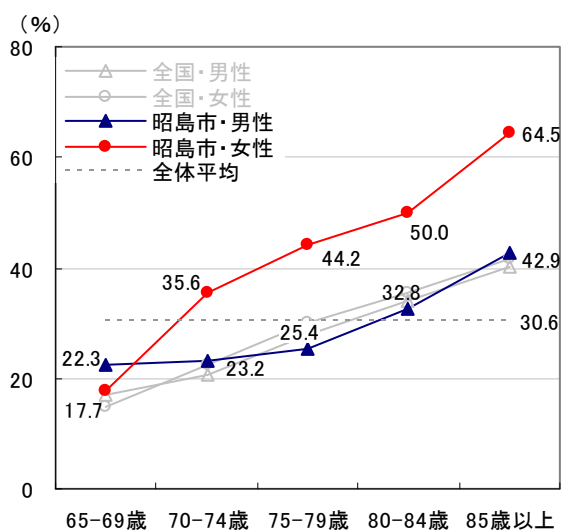
図表 評価項目別該当者割合
閉じこもり予防



図表 評価項目別該当者割合
認知症予防



うつ予防



3) 認知機能

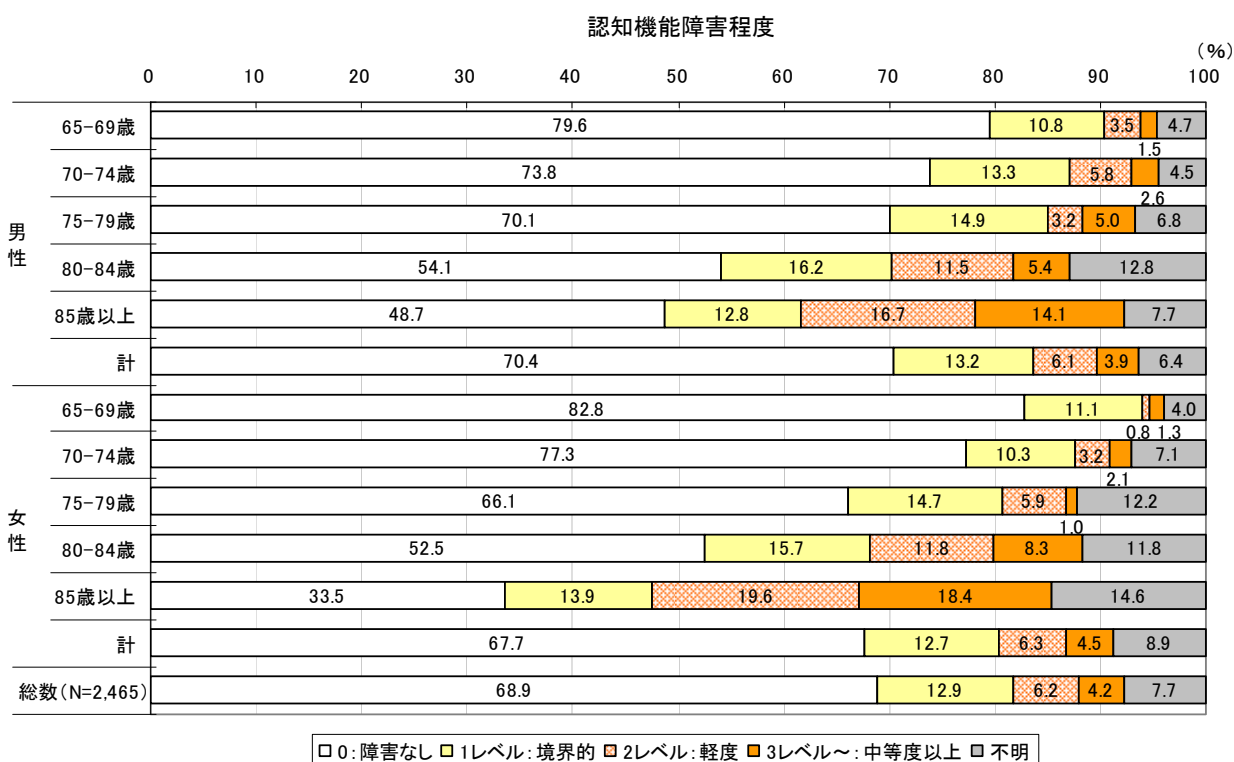
今回の調査票には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS（Cognitive Performance Scale）に準じた設問が含まれており、認知症リスクとして0レベルから6レベルまでの評価が可能となっています。

結果をみると、1レベル以上と評価されるリスク者の割合は、認定者も含めた全体で23.3%（男性23.2%、女性23.5%）となっています。

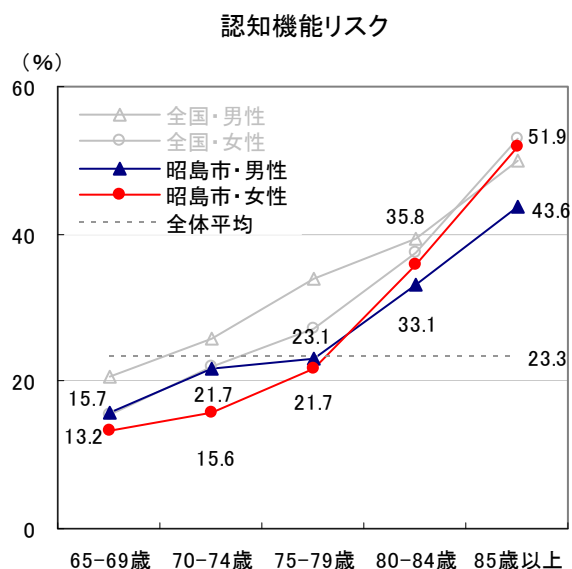
中等度以上と評価される3レベル以上は、全体で4.2%となっています。

年齢別にみると、やはり男女とも年齢が上がるほどリスク者の割合が高くなっていますが、全国のモデル調査の結果と比較すると男女ともその割合が低くなっています。

図表 認知機能障害程度分布



図表 認知機能リスク者割合



4) 疾病

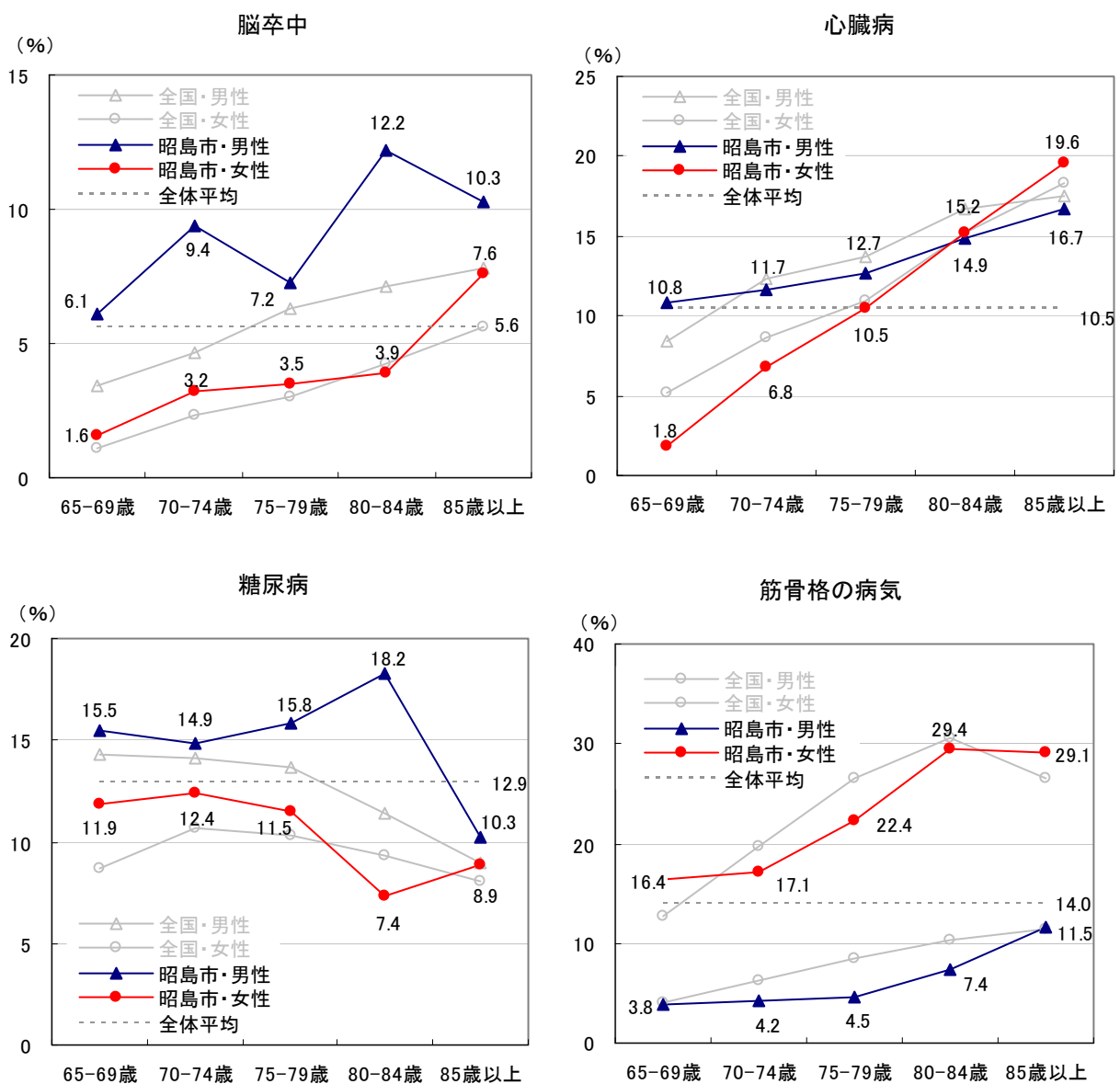
今回の対象者の疾病の状況（「現在治療中または後遺症のある病気」）を、要介護原因に結びつくと考えられる主な疾病についてみてみます。

全体では「筋骨格の病気」（14.0％）が最も多く、次いで「糖尿病」（12.9％）、「心臓病」（10.5％）、「脳卒中」（5.6％）の順となっています。

これを性別にみると、「脳卒中」、「心臓病」、「糖尿病」は総じて男性のほうが多い一方、「筋骨格の病気」は女性のほうが顕著に多くなっています。全国との比較では、男性で「脳卒中」や「糖尿病」の有病率が高いことがうかがえます。

年齢別にみると、「糖尿病」を除き、全般的に年齢が高くなるほど有病率が高くなる傾向がうかがえます。

図表 疾病別有病率



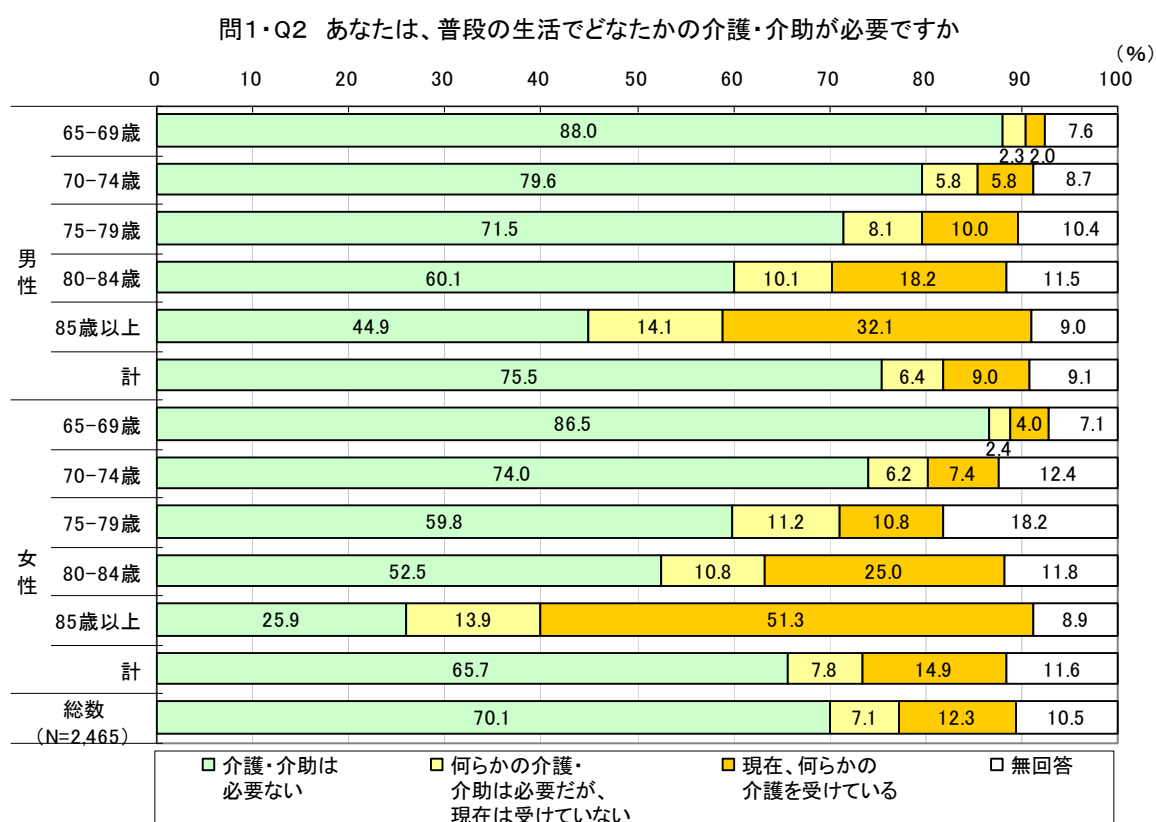
5) 介護・介助の必要性

介護・介助の必要性に関する設問（問1・Q2）に対する回答をみると、全体の12.3%は既に「現在、何らかの介護を受けている」としており、また同じく7.1%は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答しています。

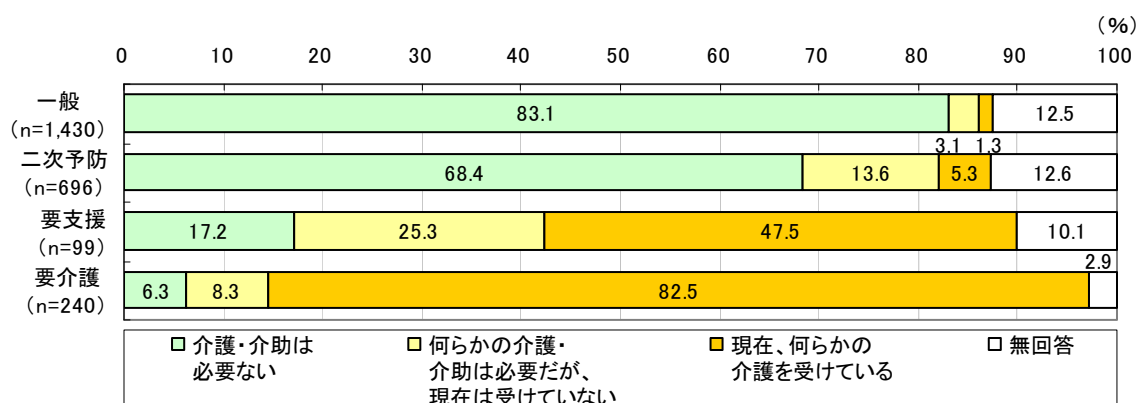
性別・年齢別では、男性より女性で、また年齢が高くなるほど「介護を受けている」、「何らかの介護・介助は必要」とする回答の割合が高くなる傾向がみられます。

認定状況別にみると、要介護認定者の82.5%、要支援認定者の47.5%が「介護を受けている」と回答しているほか、二次予防事業対象者では5.3%が「介護を受けている」、13.6%が「必要だが現在は受けていない」と回答しています。一方で、要介護認定者の6.3%、要支援認定者の17.2%は「介護・介助は必要ない」と回答しています。

図表 介護・介助の必要性



図表 介護・介助の必要性－認定状況別

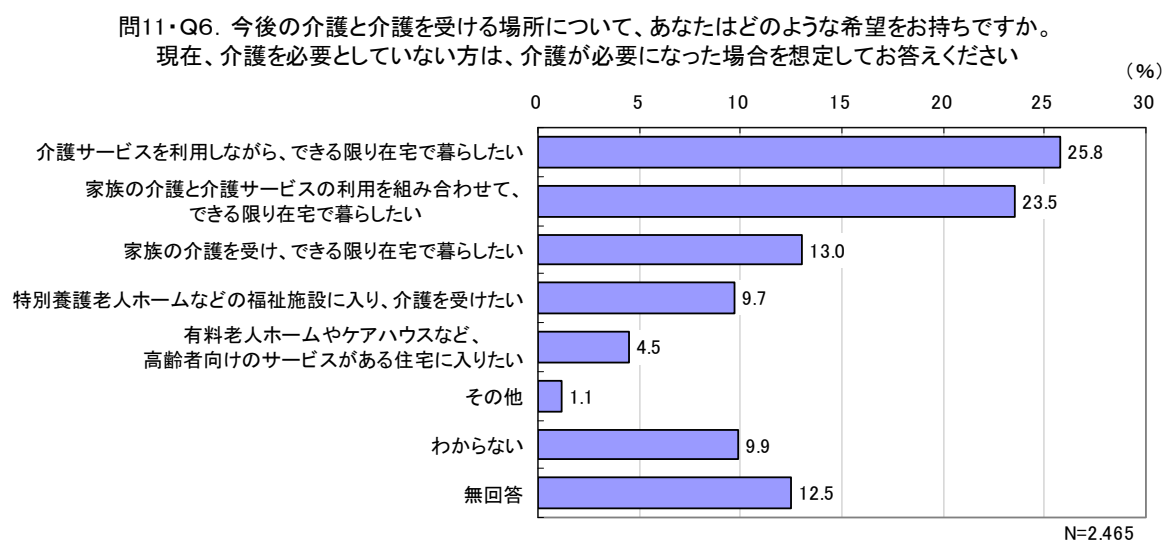


6) 介護の希望

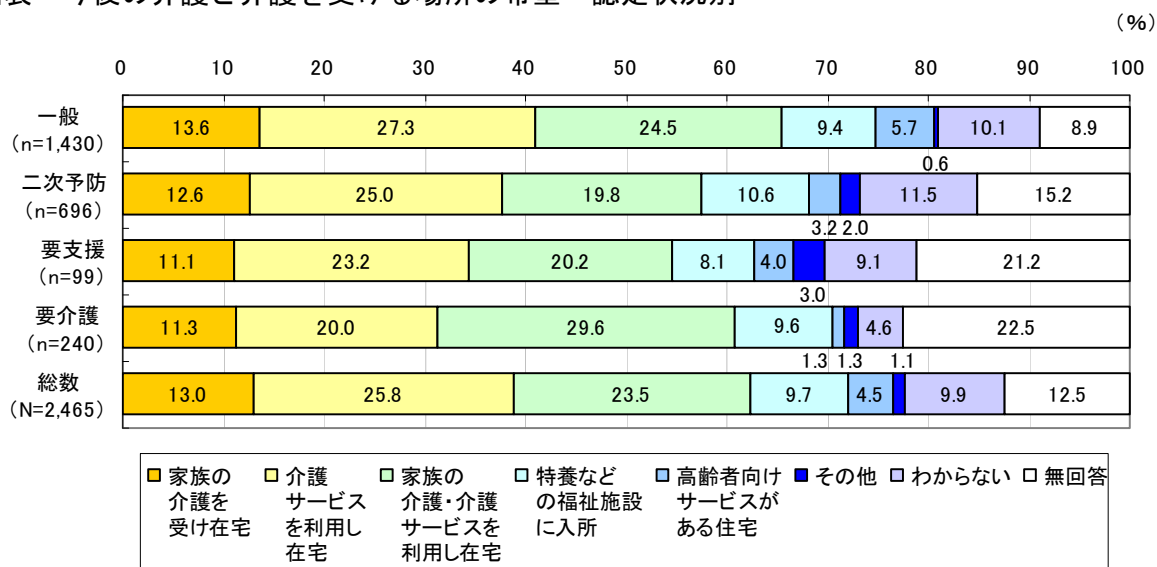
今後の介護についての希望としては、「介護サービスを利用しながら、できる限り在宅で暮らしたい」が25.8%と最も多く、次いで「家族の介護と介護サービスの利用を組み合わせ、できる限り在宅で暮らしたい」が23.5%となっています。「家族の介護を受け、できる限り在宅で暮らしたい」も13.0%を占めています。一方、「特別養護老人ホームなどの福祉施設に入り、介護を受けたい」は9.7%で、在宅希望に比べて少なくなっています。

認定状況別にみると、在宅介護を希望する回答割合については、一般高齢者が65.4%で最も高くなっていますが、次いで要介護認定者が60.9%となっており、要支援認定者(54.5%)や二次予防事業対象者(57.4%)を上回っています。

図表 今後の介護と介護を受ける場所の希望



図表 今後の介護と介護を受ける場所の希望－認定状況別



7) 地域別にみた状況

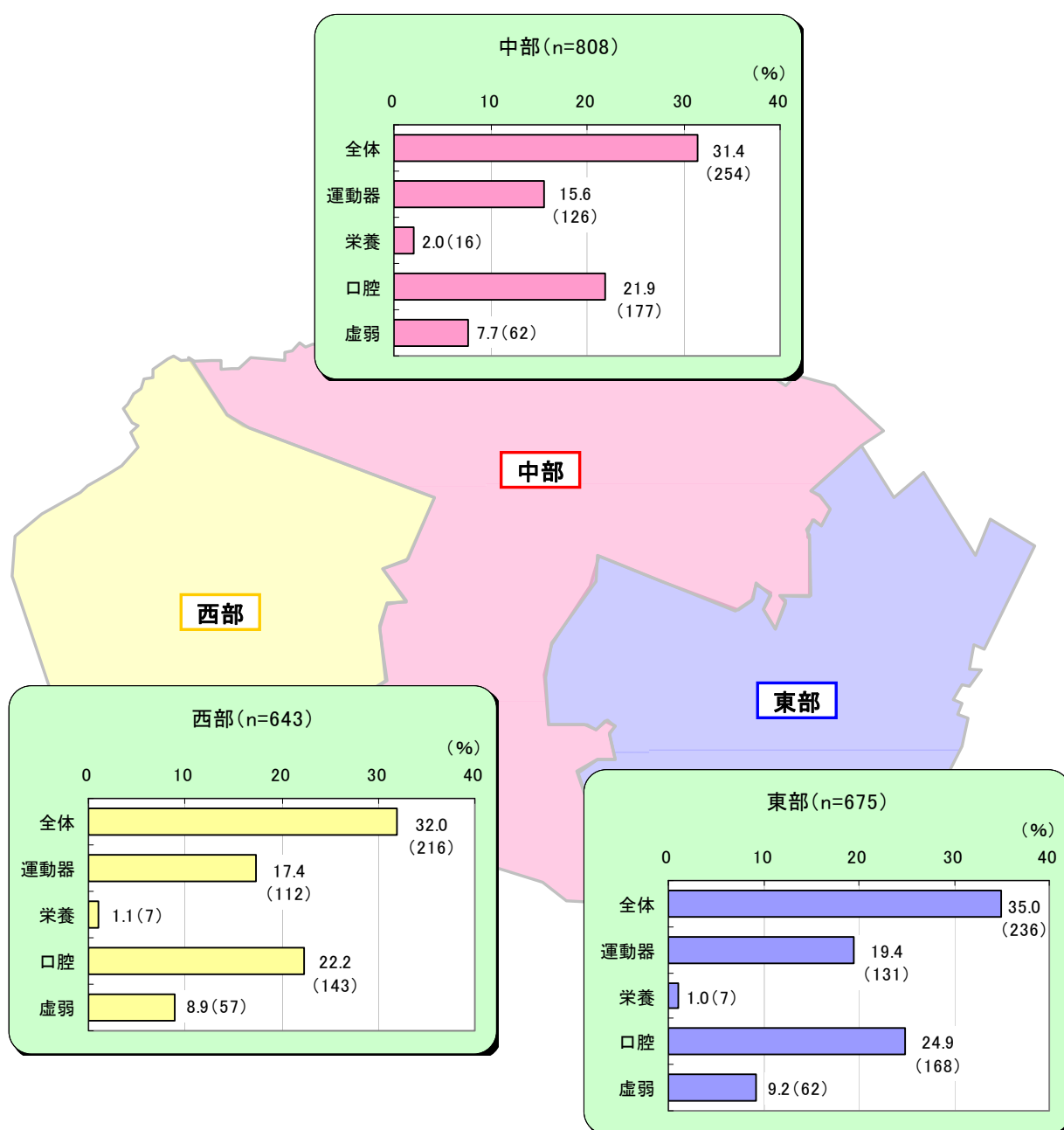
①二次予防事業対象者割合・対象者数

全体の二次予防事業対象者割合は、東部が35%で最も高くなっています。

個別の評価項目でも、運動器、口腔いずれも全体の対象者数が多い東部が最も高くなっています。

二次予防事業対象者数を地域別にみると、全体の対象者数が多いのは高齢者数の多い中部になっていますが、介護予防教室の中心になる運動器については、東部での対象者数が最も多くなっています。

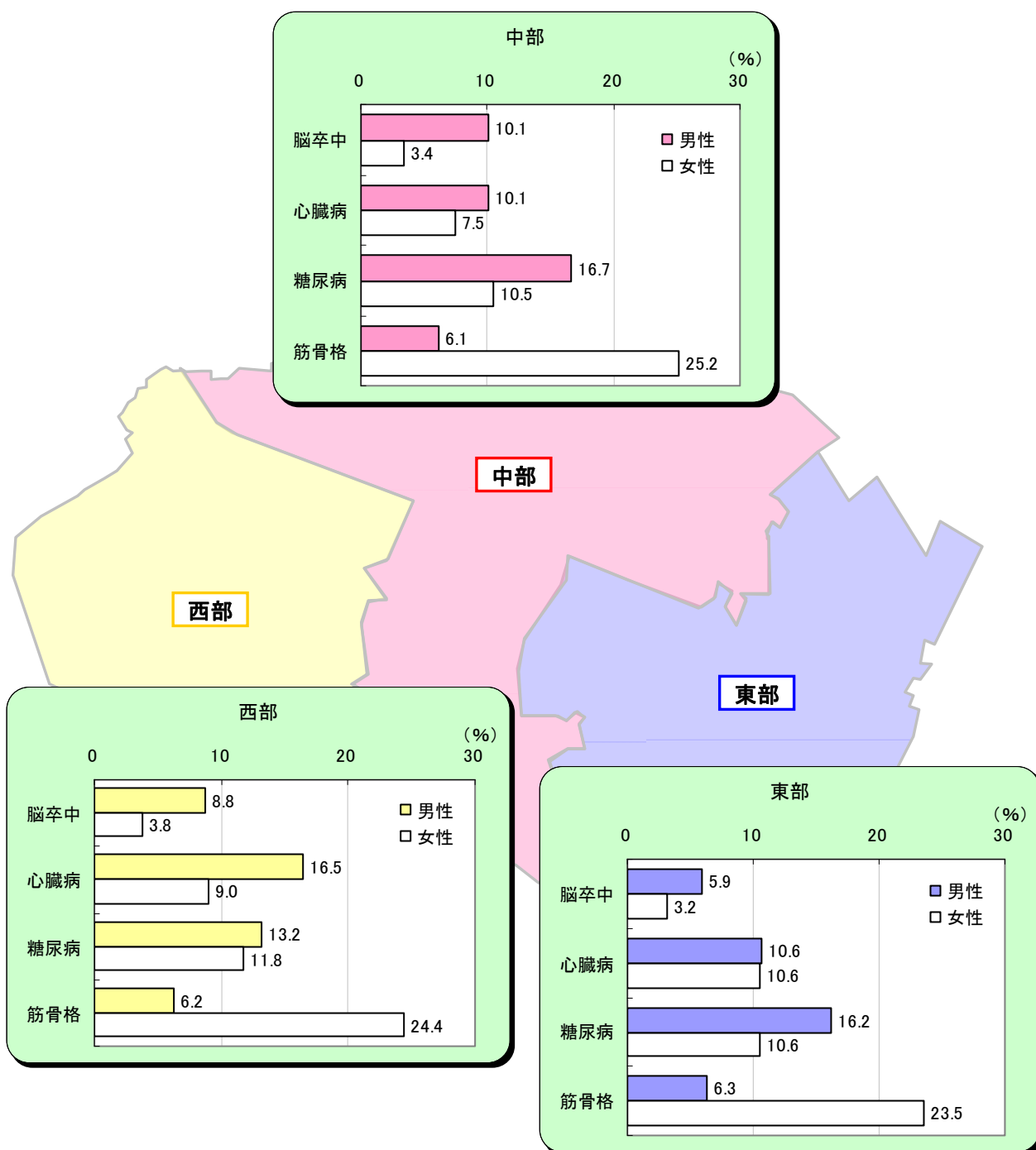
図表 地域別二次予防事業対象者割合・対象者数



②疾病

介護と関係する主な疾病（「現在治療中または後遺症のある病気」）の状況を地域別にみると、「筋骨格の病気」以外はいずれの地域でも男性のほうが有病率が高くなっていますが、「脳卒中」については中部の男性で、「心臓病」は西部の男性で、「糖尿病」は東部及び中部の男性でそれぞれ有病率が高くなっています。

図表 地域別有病率



③認知症リスク

今回の調査結果から評価可能な認知機能障害程度区分でみた認知症リスク者を地域別にみると、地域によってリスク者数に顕著な差はみられません。

高齢者数が多い中部では、リスク者の割合が低いことがうかがえます。

図表 地域別認知症リスク者数

